

高鷲開拓記念館の日 満州引き揚げ者との対談！

7月6日に高鷲町民センターの「開拓記念館の日」に、琿春高鷲開拓団を経験された三人の方々を迎えて、「引き揚げ者との対談」が開催された。

三人は琿春高鷲村開拓団へ昭和15年から19年に入植された方々で、幼い身ながら親御さんに連れられて胸膨らませて渡満されました。しかし昭和20年日ソ中立条約がソ連の一方的破棄によって8月9日にソ連軍が攻めてきました。それから開拓団の逃避行が始まり、高鷲村開拓団六百四十名は雨の中トモンへ落ち延びました。すると入植地近くの永安炭鉱へ戻りなさいと言う命令が下り、避難民収容所へ入りました。そこでは、疫病や栄養失調、匪賊の襲来によってとても生きた心地はしませんでした等の苦労話を聞きました。

苦労話が終わった後、懇談会となり、会員からは、①何歳に渡満したのか、②学校はどうであったか、③どのような物を栽培していたか、④逃避行の様子をもっと詳しく知りたい等の質問が飛び交った。三人の方々は大変丁寧にそれぞれの質問に答えられ、写真などを見せていただき、大変勉強になった対談であった。



会員と対談する開拓団経験者



満州開拓の写真のをぞき込む会員

鷲見氏関連施設第三回見学会報告！

前日までの雨が心配されましたが、7月16日当日は曇りながらも雨は落ちてこず、気温も適温で参加者の10名によって実施された。最初は鷲見氏居館跡に集合し、そこで簡単な鷲見城の説明を聞いて、その後、大手道から登った。途中前日の雨のため滑りやすかったが、皆さんは六ツ城より登りやすいと言って元気であった。眼下には高鷲振興事務所や向鷲見の集落が手に取るように開けていた。城跡は意外に広く、今まで見た鷲見氏関係城跡の中で最も広く、城跡もしっかり残っていた。資料としては、故林春樹氏が調査された図面だけで、今後の本格的山城調査が望まれると、参加者全員の意見が一致した。鷲見城本丸跡で記念写真を撮った後、柳の馬場を通り、搦手道を通って下山した。その後、さんさんハウスで昼食（コオロギの弁当）を食べ

て解散した。なお、鷲見城について詳しくは「高鷲の文化財」の 29 頁をお読みください。



参加者の集合写真
左から（各氏）
水上精榮
山下直樹
出口八重子
鷲見尚武
平井道則
中谷豊樹
三橋久子
上村文隆
川尻斉

撮影者：上村強

白川郷耕雲塾郷土史研究発表会 善俊の実像を探る！

7月19日にNPO法人白川郷耕雲塾主催、高鷲文化財保護協会と第一三組教化委員会が共催した「白川郷耕雲塾郷土史研究 発表会」が高鷲町民センターホールで開催されました。テーマは「本願寺八世門主 蓮如との双壁 善俊の実像を探る」で、板谷本一耕雲塾事務局長の話と早稲田大学名誉教授の柿崎京一先生が「善俊の足跡と白川郷」と題する講演をされた。

講演内容は、はじめに、善俊の足跡の再検証、白川入りと萩町城主の次男市右衛門との邂逅、白川時代の消息、まとめ、でありました。特に高鷲との関係は、善俊が西洞の宝連寺で寄宿しながら布教活動をしたと話され、大変興味深いお話でした。

郡上地域は天台宗の長滝寺がありますが、この善俊の布教活動によって浄土真宗が多くなりました。今回の講演にも多くの信者の方々が高鷲のみならず白鳥町、白川村からも多くの聴衆を得ました。



講演する柿崎京一氏

聴講する
会員等

